

診療情報および検体（試料）を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身や御家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身や御家族の診療情報・検体（試料）を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2000年1月1日 ～ 2016年12月31日の間に、膵癌のために虎の門病院消化器外科に入院・通院し、膵切除を受けられた方

【研究課題名】

低分化、未分化膵癌における hCG、PLAP の検討

【研究の目的・背景】

《目的》

消化器癌の中に胎児性癌蛋白であるヒト絨毛性ゴナドトピン（hCG）やαフェトプロテイン（AFP）を産生する腫瘍が知られている。AFP産生胃癌やhCG産生胃癌、大腸癌は予後不良であることが報告されている。今回、膵低分化癌、退形成膵癌においてhCG、PLAPが陽性となるものを認めた。これら、ホルモン産生膵癌の臨床病理的性質を検討することで性質を明らかにすることを目的とする。

【研究のために診療情報・検体（試料）を解析研究する期間】

2018年5月11日 ～ 2018年12月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院、橋本 雅司のもと研究終了後3年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報・検体（試料）】

診療情報： 検査データ、診療記録、MRI、内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）、画像データ、CT データ、薬歴、看護記録

検体（試料）： 病理組織

【研究代表者】

虎の門病院 消化器外科 氏名 藤井能嗣

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 氏名 橋本雅司

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報・検体（試料）の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身や御家族が診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身や御家族診療情報・検体（試料）が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年11月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器外科 氏名 橋本 雅司

電話 03-3588-1111(代表)